

地域ケア会議 NEWS☆LETTER

発行：小諸市地域ケア推進会議事務局（小諸市高齢福祉課・小諸市地域包括支援センター）

令和3年度 第3回地域ケア推進会議を開催！

2月22日、令和3年度最後の地域ケア推進会議・生活支援体制整備推進会議を開催しました。新型コロナウイルス感染拡大により県内でまんえん防止等重点措置が適用中だったため、初めてのオンライン開催となりました。

今回の会議では、『つながりを切らさない・つながりの多様性を考える取り組み』について、目指す地域の姿を共有し、課題解決・目指す地域の姿実現に向けた取り組みのアイデアをグループに分かれて出しました。



▲コロナ禍の中、今回のオンライン会議も『つながりの多様性』を叶えるの1つのツールだと実感しました。

【つながりを切らさない・つながりの多様性を考える】

目指す地域の姿を共有・実現に向けて何をする？

今回、高齢期のライフステージを①まだまだ元気期②見守り・軽度援助必要期③全介助期に分け、①と②について【多様なつながりが実現している小諸市】の姿を確認しました。

②見守り・軽度援助必要期



◆本人の状態として、SOSが自身で出せないとしても、誰かが必ず気にかけて、心配な状況に気づいて、地域包括支援センターや医療機関、家族など支援につながっていき、支援につながって終わりではなく、今までのつながりも継続できる状態。

◆引き続きやりがいや生きがいを感じている、支援につながって大変な部分に手が入ることによって今までの『支える側』でのつながりや、自身から積極的に関わっていたつながりも継続できる⇒つながり続けるところも叶えていける手段や仕組みが整っている地域

2つの目指す地域の姿を実現する様々なアイデア（つながり先や仕掛け・仕組み）が会議当日のグループワークで出されていました。次回の推進会議では具体的な取り組みの役割分担を行います！

①まだまだ元気期



◆本人の気持ちや状態として、楽しさや生きがい、やりがいを感じ、『何かのときのためにつながっておこう』ではなく無理せず自然につながっている状態。

◆『気づいたらつながっていた』という状態になるための『つながる仕掛け』がたくさんある

◆介護予防や福祉の視点にとらわれず、私たちが思いもよらないつながり先を考えていきたい。

おじゃましました！【医療法人 柳泉会】

認知症サポーター養成講座を法人内で開催



3月23日、老人保健施設メディトピア小諸にて、医療法人柳泉会の職員の皆さんを対象に、認知症サポーター養成講座が開催されました。

講師を同法人のケアマネジャー：鷹野みち子さん、看護師：荻原公子さんが務め、会場・オンライン合わせて53名の皆さんが受講されました。

講座では、認知症の種類や、症状（中核症状、行動・心理症状）など基本的な知識、認知症の方の生きる意欲をゆっくりと目に見えない形で失わせるケア・



環境を示した【悪性の社会心理】について、認知症の方が求める5つのニーズ（①くつろぎ②自分らしさ③結びつき④たずさわ



▲講師の荻原さん（左）と鷹野さん（右）

ること⑤共にあること)について等、資料を用いて分かりやすい説明がありました。また、実際のケア方法として3つの場面①家に帰りたい②ごはんをまだ食べていない③メガネがないについて、不適切な対応と良い対応を寸劇で実演。お二人の迫真の演技と、寸劇後のポイント解説に、受講者の皆さんは笑顔を見せながら、熱心にメモを取っていました。



講義の中で「私たちは認知症高齢者をとりまく『環境』であり、私たちの関わりで認知症高齢者は変わる」とのお話があり、講座の内容が日々の業務・実践に直結する内容となっており、とても印象に残りました。



▲不適切な対応と良い対応を実演。お面の表情に注目！！

【多職種連携研修会】意思決定を尊重する地域ケア会議

～本人の最善に限りなく近づくために～



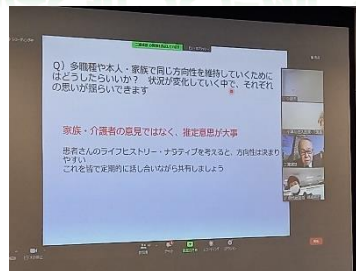
3月26日、推進会議のメンバーである小諸北佐久医療・介護連携推進協議会が主催し『多職種連携研修会』がWEB研修として開催され、小諸北佐久地域の多くの医療・介護関係者が参加しました。

講師は、東京慈恵会医科大学 附属柏病院の三浦靖彦先生。

高齢化が進み、医療技術が進歩した現代、医療の選択肢や個人の価値観が多様化する中で、



『ご本人や家族にとっての最善』を地域でどのように支えていくかを考えていく必要があり、その際には、『ご本人の思いを大切にする』・『ご本人に不利益にならないよう、最善と思われることを行う』・『社会的適切さがある等』の



『臨床倫理』の視点が大切であるとお話がありました。この視点を、ご本人に関わる様々な人たち（家族・地域の方・医療、介護関係者）が共通認識として持ち、ご本人の

人生観や死生観、ものがたりを大切に、適切な意思決定支援を行い、ご本人・ご家族と医療・介護の多職種チームが共同で意思決定をしていくこと、元気なうちから『どの医療行為を受けたい、受けたくない』だけではなく、

『どのように生きていきたいのか』の視点でアドバンス・ケア・プランニング（ACP：人生会議）を様々な場面で実践していくことが大切であることを学びました。



【編集後記】平成30年度から地域ケア推進会議の担当者として4年間お世話になりました。この度、人事異動となり、このNEWS☆LETTERの原稿作成も最後になります。『高齢者の皆さんが自分らしく豊かに安心して暮らせる小諸市になるために地域ケア推進会議が果たす役割は何だろう？』を常に考え、委員の皆さんをはじめ、地域の皆さん・関係機関の皆さんと考え、語り、実践できたこと、本当に感謝しております。これからも、目指す小諸市の姿を共有し、オール小諸で取り組みを進めていけますよう、引き続きご協力をお願いいたします。新たな部署では分野を超え、地域共生社会実現を目指し頑張ります！本当にありがとうございました。

